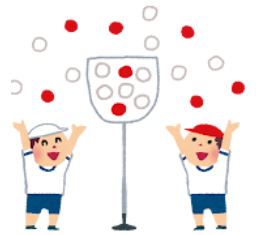




主役は子どもたち ～心を動かす運動会～

涼しい風が流れるグラウンドで、令和7年度の運動会が無事に終了しました。

保護者の皆さまには、早朝からの応援に加え、終了後のテント片付けにも多くの方がご協力くださり、教職員一同、心より感謝申し上げます。皆さまの温かいご支援のおかげで、すべてがスムーズに進み、気持ちよく一日を締めくくることができました。



今年度の並木小学校運動会は、「全力で楽しみ 勝利の道へ」というスローガンのもと、短い準備期間の中で、子どもたち自身が主役となる運動会を目指して取り組んできました。指導にあたる教職員は、形の「統一美」よりも、子どもたちが自らの思いを出し切り、心から楽しめることを大切にしてきました。演技や競技の完成度以上に、一人ひとりの笑顔や真剣なまなざしこそが、運動会の成功を物語っていたと思います。

閉会式後、子どもたちに感想を聞くと、実に多くの子が「楽しかった!」と笑顔で答えてくれました。その一言に、この運動会がいかに子どもたちの心を動かし、自信や誇りを育んだかがよく表れていたように思います。

さらに、今年度は久しぶりに PTA 主催の種目が復活し、「並木小〇×クイズ」を行いました。保護者の皆様や卒業生の皆さんにもご参加いただき、大いに盛り上がりました。地域や家庭とのつながりの中で、子どもたちは学び、育っていきます。そうした温かなつながりを改めて実感できる、素晴らしい一日となりました。



運動会を通して、子どもたちは「仲間と力を合わせること」「あきらめずに挑戦すること」の大切さを体験することができたと思っております。今後の学校生活や学びの中でも、この経験が力強い土台となっていくことでしょう。ご理解とご協力をいただいたすべての皆さまに、心より感謝申し上げます。

これまで大切にしてきたことを、これからも

教育の世界で「SEL(社会的・感情的スキル)」という言葉が注目されています。これは、自分の気持ちに気づき、感情を調整し、他者と協力してよりよく生きるための力を育む学びです。近年では非認知能力(やり抜く力、共感性、自己肯定感など)という言葉でお伝えしてきた力と深く関係しており、SELはその育て方をより具体化した教育の枠組みです。実はこのSELという考え方は、これまで本校が積み重ねてきた実践と自然につながるものであると、改めて感じています。たとえば運動会では、子どもたち自身が競技の進め方や係分担を話し合いながら、自分たちの手で行事をつくり上げていきました。意見のぶつかり合いもありましたが、その中で互いに折り合いをつけ、責任ある行動を学んでいきました。これはまさに、自己認識や人間関係スキルを育てるSEL的な活動といえるでしょう。また、日々の授業でも、子どもたちは問いをもち、友だちと対話を重ねながら考えを深めています。自分と異なる考えにふれ、受け止め、互いに学び合う姿勢は、まさに今求められる「社会的認識力」や「共感性」を育てる学びといえると思います。

本校では、「対話を大切にする学び」「自ら考え、行動する力の育成」「互いを認め合える関係づくり」などに今まで取り組んできました。これらの実践は、名前こそ「SEL」とは言わなかったものの、まさにその理念と一致していたのだと感じています。ですから私たちは、「新しいことを始める」のではなく、「これまで大切にしてきたことに、今後もより一層意識的に取り組んでいく」ことが大切だと考えています。子どもたちが安心して自分を出せる学級、失敗を恐れず挑戦できる雰囲気、友だちと学び合える関係性——こうした土台があつてこそ、深い学びが生まれ、学力の向上にもつながっていきます。

これからも並木小学校では、子どもたちの“心の育ち”と“確かな学び”を大切にしながら、日々の教育活動を進めてまいります。ご家庭でも、日々の小さな成長を温かく見守っていただければ幸いです。

校長 大村 千博

1・2年生「レッツ玉入れ！チェツチェツコリ！」～笑顔いっぱい、元気いっぱいの大活躍！～

軽快なリズムにあわせて、元気いっぱいのチェツチェツコリダンスと「この世界はダンスホール」を披露しました。体を大きく動かして、にこにこ笑顔で踊る姿に、会場中が思わず笑顔になりました。可愛らしさの中にも、一人ひとりの「がんばりたい！」という気持ちがしっかりと伝わってくる、すばらしいダンスでした。玉入れでは、自分の学年が投げるときには、思いきり高く玉を投げ、かごをねらって真剣な表情でした。他学年が球を入れている時は、「がんばれー！」と声をそろえて一生懸命仲間を励ます姿がとても印象的でした。競技の中でも、「見る」「応援する」「支える」といった役割をしっかりと果たしていた1・2年生。その姿から、大きな成長が感じられました。また、運動会のはじめの言葉とおわりの言葉という大きな役割にも、代表の子どもたちが堂々と挑戦しました。緊張しながらも、しっかりと声を出し、運動会の始まりと終わりをしっかりと飾ってくれました。



3・4年生「愛日本よさこい」～心をひとつに、元気に舞う～



「愛日本よさこい」を披露しました。よさこいは、高知県発祥の伝統的な踊りをもとに、現代的な音楽や振り付けを融合させたエネルギッシュな演舞です。並木小の子どもたちは、鳴子の代わりに両手に鈴をつけ、音を響かせながら、元気いっぱいに踊り切りました。中学年らしい伸びやかでダイナミックな動きに、楽しさと真剣さがにじみ出ており、一人ひとりが笑顔で全力を尽くす姿がとても印象的でした。特に、3・4年生が息をぴったりと合わせて踊る

場面では、これまでの練習の積み重ねや、仲間とのつながりがしっかりと伝わってきました。鈴の音が一斉に鳴り響くたびに、子どもたちのエネルギーが観客席まで届き、保護者の皆さまからも自然と手拍子が起こるほどの盛り上がりとなりました。踊り終えた子どもたちの表情は、やり遂げた満足感と、仲間と一緒に踊った喜びに満ちあふれていました。見ている人の心を動かす、すばらしい演技でした。

5・6年生「並木小ソーラン2025」～迫力と団結の舞～

ソーラン節といえば、北海道の民謡「ソーラン節」をもとに、力強い漁師の動きを取り入れた迫力ある踊りです。子どもたちは、腰をしっかりと落とし、全身を使って、ひとつひとつの動きを丁寧に、そして堂々と表現してくれました。踊りの合間に響く「ソーラン！ソーラン！」のかけ



声は、今までの運動会で見てきた中でも最も大きく、全員の心と声が一つになっていることを強く感じさせました。全身で表現されるその迫力に、会場中が引き込まれ、自然と拍手がわき起こりました。また、演技の練習では、6年生が5年生に声をかけたり、動きをそろえたりと、リーダーとしての姿も輝いており、仲間とともによりよい演技をつくり上げようとする姿勢が見られました。5年生も、その6年生の背中をしっかりと見て学び、一人ひとりが真剣な表情で演技に臨んでいました。大きな舞台上で堂々と力を発揮するその姿に、来年度の成長がますます楽しみになりました。高学年としての責任、団結、表現力…すべてが詰まった「並木小ソーラン2025」は、並木小学校の誇りと呼べるすばらしい演技でした。

6月の主な予定

2日(月) 校内安全点検 3日(火) せいけつ調べ 4日(水) 全学年文化芸術鑑賞(打楽器)文化庁の支援
5日(木) クラブ活動②・内科検診(1・3・5年・2-2) 9日(月) 水泳学習スタート・停電予定 15:30～17:00
10日(火) 5・6年朝の読み聞かせ 2年町探検 11日(水) 1年公園探検なみ KIDS
12日(木) 委員会活動②・2年町探検 18日(水) 昼読み聞かせ@図書室
19・20日 6年修学旅行東京鎌倉方面 23日(月) 1年保護者交流会・給食見学
24日(火) 交通安全教室(1～6年) 25日(水) 4年湖上体験・4年弁当もち
26日(木) 1～4年朝読み聞かせ 27日(木) 火曜時間割で実施

